

# 原 正樹(名誉教授)

---

## 『境界の彼方へ 原正樹退官記念展』

2001年12月の退官展では、立派な大学美術館で今迄の作品六十点余の展観が出来、僕自身も一堂に集めその足跡を一望する機会が持てた事は感激でした。これも美術館、研究室スタッフの協力と感謝しております。

昨年一年間は計画、企画、写真撮影と忙しく、カタログが出来たのは展覧会初日でした。

東京芸大在任四十年を振り返り、プラスのトルソー時代から現在に至る四つの時代に区分して展示する計画は時代背景を検証しながらの会場構成でした。1960年代のプラスのトルソーから始まり、抽象形態を探究時代から青銅器の時代、80年代のランドスケープと滞独時代を契機に新素材、技法での制作、90年代は黒い作品の連作、中国での玄は天であり万物の基である、老荘は玄を語って「千の眼」とした、と武満徹の本の中数行を見て玄を魂の表現として、素材の物質性、形態への探求をこれからも続けたい。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)